

11～1月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

169,697円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松印刷代)	21,525円
交通費(駐車場、燃料代、高速代)	30,904円
会場費	2,200円
通信費(郵送代、携帯電話代、折込代)	115,068円
支出計 14/11/4～15/2/1	169,697円
寄付 Kさん、オザキさん	15,000円

市政を考える 月刊武松

発行日
15/2/2

第149号

16300部発行

たけまつ ただし

頒布責任者：武松 忠(市議会議員)
武松政策研究会

人口が19万5千人を割る！

12月1日の人口が19万4965人に！ 2011年以降人口減少トレンドへ！

■ついに人口19万5千人を割る

昨年12月1日における小田原市の人口が、19万4965人(前年同月比で-1110人)となりました。

その一方、世帯数は8万世帯を超え、さらに核家族化が進んでいます。

図1に1990年以降の人口と世帯数の推移を示します。

図2に2000年以降の増加人口の推移を示します。

人口は、**2011年以降、年平均800人減**となっており、2020年まで年平均1000人減の見込みです。

図3に年齢区分別人口割合を示します。

2014年では団塊世代が65歳以上となったため、**高齢化率は25%を超え**ましたが、今後も高止まりの状態と見込まれます。なお団塊の世代が平均寿命を超える2030年頃までは、自然減(生まれる子供よりも亡くなる方が多い)が続き、それ以降は65歳以上人口も下がってくる見込みで、高齢者福祉施設整備や施策もそれを想定しておかなければなりません。

図2 小田原市の増加人口の推移

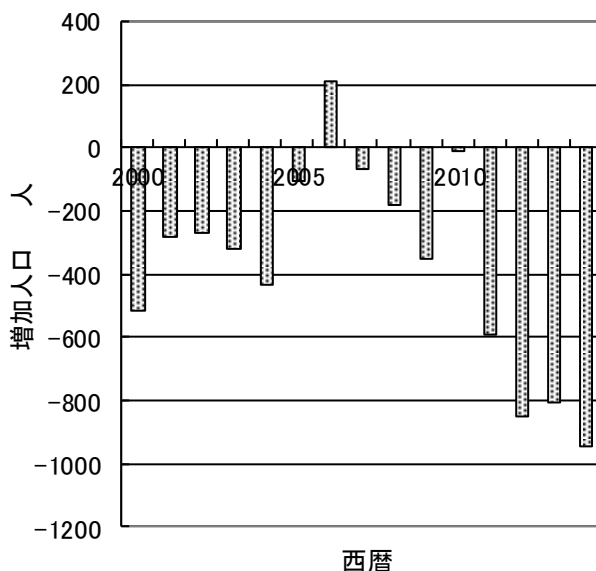


図1 小田原市の人口と世帯数の推移

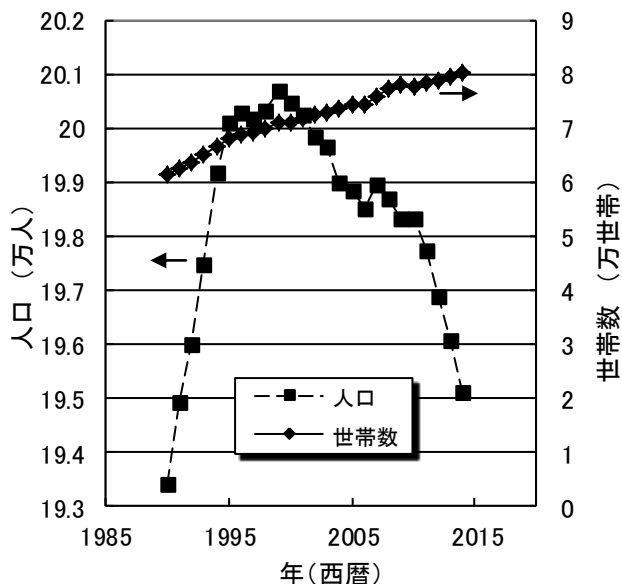
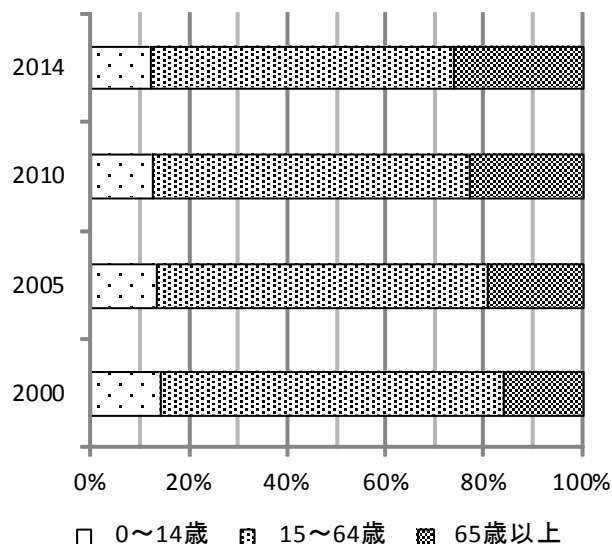


図3 年齢区分別人口割合



HaRuNe行きましたか？

長年の懸案であった地下街の再開から3ヶ月。色々な会合で行ったことがあるか伺っていますが、3割程度は行ったことがあるようです。しかし複数回行った方は1割以下でした。

特に川東地域では、再開にかかる経費や今後の運営費に対して疑問を投げかけている意見や「あまり買うものがない。」などの声も聞きます。

その一方、小田原駅周辺や小田急線沿線、大雄山線沿線の方々からは、「再開してよかった。」「明るくなった。」という声も多く聞いています。

課題としては、平日日中の人通りが少ないことや、地下街から地上部への人の流れが、見込みより少ないなど、冬季だけでなく梅雨や夏季の状況も注視していかなければなりません。

また街かど案内所「小田原日和」(タウンカウンター)も平日日中の閑散とした状況や年間1500万円にも上る委託料の費用対効果についてもチェックしていかなければなりません。

さらに、土日の東口臨時駐車場待ちによる駅前広場の混雑など新たな課題も出てきました。

■「まちづくり成功例、失敗例」

小田原市議会では議員懇話会(全議員月3千円積立)で一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス代表理事 木下斉氏による研修会を行いました。主な内容とメモを以下に示します。

小田原市議会でも視察に行った再開事業等が失敗例として挙げられ、その現状を知ると各議員から溜息が漏れてきました。成功例として視察し、行政の説明を受けていただけにその乖離からの溜息でした。

・もらえるものはもらっておけが失敗のはじまり。

過去の常識は非常識

・人口減少にどう対応するか？の知恵 → 未知

活性化事業の失敗

→無駄どころか将来にわたり大きな負担に

■国が力を入れたモデル事例

→数年後の失敗事例

国が成功事例と言うもののほど気を付けなければならない
青森市アウガ

185億円(85億円補助)当初から赤字 潰れる寸前

津山市アルネ津山

270億円(85億円補助) 60億円規模の支援

秋田エリアながいち

135億円(8割税金)→2年弱で4割テナント脱退
→市がテコ入れして12月に再開

甲府ココリ

107億円(補助金44.5億円)

住居系は安く提供されたが周辺との格差が問題

黒崎コムシティ

315億円(35億円補助)

→さらに40億円以上のリニューアル補助

歩合家賃で破綻

・区画整理を行ってもそのまま終わる。まちの価値の下落。

悪意もなく法に則っても大きな失敗に

・自治体法務の必要性 何をいつチェック？

・富山市 笛吹けど踊らず(路面電車等に莫大投資)
先行投資だけでは民間投資は喚起されない。

従来の施策+予算を国に求めるのでは×

1 施策については独自立案

2 資金は霞ヶ関だけでなく金融市場からも調達

活性化事業に転換すれば、地方都市はより充実する。

経済循環の原則を意識して、活性化に取り組む

まちの中心を採算の観点から見ていく

1 既存建築を活用した新事業

→北九州市小倉、大阪枚方、米子など多数
補助金を待っていると時期を逃す。

売上げよりも利益重視

2 公的不動産活用による経済開発事業

3 エリアファシリティマネジメント事業

4 エージェント型PPP事業

失敗のプロセス

需要予測だけで先に計画、投資してから提供すると破綻

成功のプロセス

予測だけでなく確実な提供先と契約してから、投資規模を決め計画する

No more 補助金！

武松忠議会報告会のお知らせ

2月の議会報告会 どなたでも参加できます。

日時：2/28(土)18時～20時

場所：小田原市民会館6階 第1多目的室

テーマ：「懸案事業の遅延について」

参加費：100円 終了後、実費で懇親会を行います



HPIは、**YAHOO!**で「たけまつただし」 月刊武松バックナンバー全て掲載しています。

寄付は、ジャパンネットバンク 本店 普通口座 7941377 タケマツタダシ

さがみ信用金庫 国府津支店 普通口座 0051228 武松政策研究会 武松忠 まで

月刊武松は**本人が配布**しているため、行き届かないところがありますが、読み終わりましたら知合いの方にお渡しいただくと幸いです。また、**eメールでも送付していますので連絡下さい。**